

単元名:「おなじ」と「ちがう」をみつけよう

氏名:富永 有里	学校名:奈良県立西和養護学校	
担当教科:国語科・数学科・音楽科	実践教科:国語科・音楽科	
時間数:5時間	対象学年:中学1～3年	人数:国語科6人 音楽科12人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・「おなじ」と「ちがう」をみつけよう		
・外国の写真や動画を見たり、衣装や楽器などの実物に触れたりすることで興味をもつことができる。 ・音楽や遊びを通して友達とつながりを持ちながら活動することができる。		
【2】 単元の評価 規準	(ア) 知識・技能	・乗り物や食べ物の名称を知り、書き表している。(国語) ・教員や友達と一緒に見本を模倣して体を動かしている。(音楽)
	(イ) 思考・判断・表現	・写真を見て「おなじ」と「ちがい」に気付いている。(国語) ・曲の雰囲気を感じて、体を動かしている。(音楽)
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	・自分から実物に触れたり、遊びに取り組んだりしようとしている。(国語) ・外国の音楽に興味を持ち、友達と一緒に表現しようとしている。(音楽)
【3】 単元設定の理由	【生徒観】 授業者が国語科を担当している生徒は、興味関心が強く、どんなことにも真面目に取り組むことができる生徒が多い。学習が始まる前には、「今日は、何する?」や「テレビつかう?」と聞きに来るなど、学習をとても楽しみにしている様子が伝わってくる。また、学習中はとても意欲的で、自分が発表する順番になることを楽しみにしていたり、友達の発表をしっかりと聴いたりする姿も見られる。しかし、新しい学習をする時には、少し不安そうにしている様子も見られる。 授業者が音楽科を担当している生徒は、リズムを感じながら身体を動かしたり、歌詞を口ずさんだりしながら音楽の学習を楽しんでいる様子がある。また、曲のテンポを感じ取りながら、模倣して身体を動かしたり、楽器を鳴らしたりすることが出来る姿も見られる。 【指導観】 国語科の学習の導入部分では、できるだけ生徒たちにとって身近なことや生徒が好きなことを学習の入り口になるようにしたり、実物を提示したりすることを心がけながら学習に取り組んできた。はじめは、黙ってしまったり、固まってしまったりする様子が見られたが、自分が困ったときは「わからない」や「ヒントください」などということを繰り返し伝えていくことで、自分の気持ちを言葉で伝える場面も増えてきた。 音楽科では、歌詞に動作をつけて、歌詞を見ながら歌を歌う生徒と歌詞を聞いて動作で表現する生徒など、生徒全員が参加することができるように配慮・支援をしてきた。また、「歌をうたう」や「動作をする」など、今、何をする時間であるのかが生徒にとってわかりやすいように、活動の時間を区切ったり、動作のはじめには合図を出したりすることなどにも心がけながら学習を進めてきた。 しかし、国語科も音楽科の学習も生徒一人ひとりの興味関心のポイント、理解や習熟の進度、学びの深まりなどが違っているからこそ、「個」に合わせた言葉のかけ方、そして生徒の応え方の提示方法などを工夫することにまだまだ難しさを感じている。	

【教材観】

国語科の単元『「おなじ」と「ちがう」をみつけよう』は、「乗り物の名称と役割」「看板・ポスターを読もう」「漢字を読もう」の3つの単元を関連させた学習である。既習では、「飛行機」がたくさんの人や荷物を遠くへ運ぶことが出来るということや看板・ポスターにある文字を読んだり、イラストを見たりしながらどんなことを表しているのかを考える学習をしてきた。そして、飛行機に乗って外国に行くことが出来るということから、ペルーという国について紹介する。「ペルー」は、遠く離れた国ではあるけれど、できるだけ身近に感じることができるよう知っている食べ物や飲み物を教材とし、自分たちの知っているものと比べることができるようにした。また、楽器や衣装を取り扱う際は手に取って音を出したり、衣装を着て疑似体験したりする時間を設定し、ペルーの遊びに関しても、既習の漢字を使ったり、少しアレンジしたりしながらルールをシンプルにし、生徒たちが楽しめるように授業を組み立てた。

音楽科の単元は、「ディアブラダ」の曲で身体表現する学習に取り組む。ペルーの伝統的な曲に合わせて、ハンカチを手に持って振ったり、駆け足でステップを刻んだりしながら学習を進める。既習として、ポンポンを手に持って身体表現をしたことがあるが、駆け足でステップを踏みながらハンカチを振るという協応動作は難しいことも予想されるので、それを支援するためにリトミックを取り入れて、足のステップの動きに慣れるようにしたい。

【4】展開計画(全6時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 国語	写真を見て、おなじところやちがうところを見つける	- 今まで学習をしてきた、乗り物や看板の写真を見て、乗り物の名称や看板の言葉について考え、電子黒板に書いたり、読んだりする。 - 二つの写真を比べて「おなじ」「ちがう」ところを見つける。(色、大きさ、形など)	電子黒板
2 国語 本時	食べ物や飲み物、衣装や楽器など本物に触れて外国に関心をもつ	- 写真に写っている乗り物や、食べ物は外国(ペルー)のものであることを紹介する。 - ペルーを紹介する際、地球儀や、世界地図を見せながら、外国にも興味が持てるように言葉かけをする。 - 写真に写っている実物を子どもたちに見せながら実際に触ったり、音を出したりする時間をとる。	- 電子黒板 - 地球儀 - 世界地図 - インカコーラ - ジャイアントコーン - トウモロコシ - カンチータ - 乾燥ジャガイモ - サンポーニャ - モセーニョ - ケーナ - タルカ - グイロ - チャフチャ - マトラカ - キーホルダー(アルパカ) - 民族衣装 - ウククマスク

3 国語	外国の遊びを通して身体を動かす楽しさを感じる	①手と手 ・漢字の学習(右、左、手、足)を振り返る。 ・右手、左手、右足、左足を使ってマークとおなじところに手と足を合わせながら、ポーズをとってあそぶ。 ・おなじポーズができれば、好きなカードの言葉を読んで受け取る。 ②ヤセス ・座ってビニールボールをバウンドさせ、両手でキャッチする。5回連続で行い、何回キャッチできるかを数える。 ・合わせて5回キャッチできれば、好きなカードの言葉を読んで受け取る。	・電子黒板 ・手形足形のカード ・ボール ・カード
4 音楽	「ディアブラダ」の音楽を聴いて身体を動かそう	・リトミックスカーフを手に持って、音楽のリズムに合わせて振る。	・リトミックスカーフ
5 音楽	「ディアブラダ」の音楽を聴いて身体を動かそう	・「ディアブラダ」の音楽を聞いて、リトミックフープの中を両足で飛んだり、片足ずつ駆け足でステップを踏んだりする。	・リトミックフープ

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	・はじめのあいさつをする。 ・出席確認、健康観察をする。 ・授業の流れを確認する。		
展開 (30分)	・おなじところやちがうところを見つける。	・生徒たちが知っている乗り物や食べ物を示しながら、名称を確認する。 ・写真や実物を見比べながら、おなじところやちがうところなどに気付いた人から順番に聞いていく。 ・写真を見ながら、アメリカ、中国、韓国の食べ物や国旗を紹介する	・スライド ・電子黒板 ・ジャガイモ ・トウモロコシ ・コカコーラ ・地球儀 ・世界地図

	・「ペルー」という国を知る。 ・ペルーを疑似体験しよう ペルーの がっきを さわってみよう！  ペルーの ふくを きてみよう！  ペルーの たべものや のみものを あじわってみよう！ 	・初めて聞く名前の国だということが予想できるので、地球儀や世界地図を使い、場所を指で示しながら伝える。 ・とうもろこしなどは色や形・大きさなどが違うことが分かりやすいように実物を見せたり、実際に手に持って比べたりすることができるようにする。 ・衣装を着たり楽器を演奏したりして、実際に体験する。 ・インカコーラやカンチータ、ジャイアントコーンを実際に味わってみる。(一人ひとりにコップとお皿を用意する。)	ペルーのとうもろこし  むらさき トウモロコシ カンチータ  ジャイアントコーン  ・インカコーラ ・ジャイアントコーン ・トウモロコシ ・カンチータ ・乾燥ジャガイモ ・サンポーニャ ・モセーニョ ・ピンキージョ ・ケーナ ・タルカ ・雨音棒 ・グイロ ・チャフチャ ・マトラカ ・キーホルダー (アルパカ) ・民族衣装 ・ウククマスク みんぞくいしょう ウククマスク  ペルーのふく  ポーチ  ポンチョ  ポーチ 
片付け (5分)	・楽器や衣装など、前の机の上 に持ってくる。	・楽器や衣装などを机に持ってくる。	
まとめ (5分)	・今日の学習の振り返りをする。 ・おわりのあいさつをする。	・机の上に実物などを並べ生徒たちが印象に残ったものを聞く。	
【授業実践の様子】			
・まずはじめに、授業の流れの説明を示した際、「ペルーをしよう」の「ペルー」という文字に注目し「これ何?」と質問してくる様子があった。その言葉を聞いて、生徒たちにとって「ペルー」が初めて知る言葉なのだと言うことが分かった。また、「たいけんしょう」のサンポーニャのイラストを見て、「これアイスにみえる。アイス食べるの?」とわくわくしている表情が見られた。			

・『「おなじ」と「ちがう」をみつけよう』では、写真で日本とペルーの乗り物を紹介し、「おなじ」と「ちがう」をみつける活動から始めた。乗り物の写真を見て「おなじ。」や「いっしょ。」「色ちがう。」と見つけたことを発表する様子があった。次に、看板についてどんな言葉が入るのかを考えた。「いただきます」「ごちそうさま」の言葉は日本と「おなじ」と気付いていた。果物(リンゴ、バナナ)や野菜(トウモロコシ、ジャガイモ)、コーラなどの写真と実物を重ね合わせ、「おなじ?ちがう?」とたずねると、「おなじ。」「色がちがう。」と発言したり、(おなじはこっち)と写真を指さしたり、写真と実物のおなじものを組み合わせる姿もあった。紫トウモロコシの写真には、とても驚いている様子があったが「おなじトウモロコシ。ペルーでは食べるよ。」と伝えると、実物をしっかりと見ている生徒もいた。生徒たちは、はじめて見るものも多かったが、しっかりと「おなじ」と「ちがう」を見つけていた。



・「ペルーをしろろ」では、ペルーの街並みの動画を見た。みんなとても集中して映像を見つめる様子があり、「動画を見て、みつけたものある?」と質問をすると、「バイク」「くるま」「トラック」「かんばん」など自分が見つけたものを発表していた。生徒が発表したものはすべて、学習してきたもののばかりで「大きいトラック。」「かんばんが〜い。」など、これまでに学習してきたことと比べているようだった。また、ペルーの動物を紹介したときには、写真を見てすぐに「モルモット!」と答え「知ってる?」と聞くと「わたし、モルモット大好き。」と答えた生徒もいた。「アルパカ」は初めての生徒が多かったようで、写真を見て「ラクダ。」と答える生徒がいた。「ラクダと同じように荷物を運んでくれる動物だよ。」と伝えると、先ほど「ラクダ」といった生徒が「おなじ?」と聞き返す様子があり、「荷物を運ぶのはおなじだね。」と返すと、とてもうれしそうにうなずいていた。次に、ペルーのダンスの動画(アペホタのHuaylas)を見た。色鮮やかな衣装を見た生徒たちからは「かわいい〜」という声が聞こえてきた。「みんなが着ている服とおなじ?」ときくと「ちがう〜。」「きれい〜。」と答えてくれた。

・「ペルーをたいけんしよう」は、授業の流れを説明しているときから、生徒たちが一番楽しみにしていた活動である。まずは、ペルーの楽器と衣装やマスクの体験を行った。サンポーニャやオカリナは汽車の汽笛の音に似ていると感じたようで、「ポッポーと言って。」と友だちや教員に声をかけ、その言葉に合わせて音を出していた。また、グイロやチャフチャ、マトラカは簡単に音を出すことができる楽器と言うこともあり、夢中になって楽器の音を出しながら楽しんでた。雨音棒は、雨の音をあわらしている楽器と伝えたこともあり、ゆっくり棒を傾けながら音を感じていた。また、マスクや衣装は全部で4種類あったが「(コチャパンパ村の)衣装を着たい。」と言って、二人の生徒が順番を競うようにして、ポン



チョやダンスの衣装を着ていた。衣装を着るとすぐに、教員に(写真をとって)というように「ポーズ。」と伝えに来ていた。ウククマスクは、かぶると自分ではどのようなになっているのかわからなくなることもあり、教員に写真を撮ってもらい、その写真を見て自分の姿を確認して楽しんでた。初めて見るものなので、衣装を着ることに対して「怖い。」と言っていた生徒もいたが、「先生と一緒に着てみようよ。怖くないよ。」と声をかけたことで、ポンチョを肩からかけることが出来た。ポンチョをかけながら、自分のお気に入りのサンポーニャを吹くなど、とても良い表情だった。

授業の予定表

あいさつ
はなしをきく
しゅっせきかくにん
かい(みよう)
おなじとちがうをみつけよう
みる
ペルーをしろろ
きゅうけい
たいけんしよう
かたづけ
あいさつ

授業の様子



最後は、カンチータ、ジャイアントコーン、チョコレート、インカコーラを味わった。初めて見るものばかりであったことから、はじめは「どれ食べる?どれ飲む?」と聞くと、飲み慣れているコカコーラを指さし「こっち。」と言っていた生徒もいたが、飲み終わってからおかわりに来たときには、「こっち。」と言ってインカコーラを指さし、チャレンジしていた。また、はじめから「全部食べる。」と言ってチャレンジする生徒や、すべて食べた上で「チョコレートがおいしい。」と言っておかわりに来た生徒もいた。最後の振り返りで、両方のコーラを飲んだ生徒に「どっちがおいしかった??」と聞くと「こっち。」と言ってインカコーラを指さして教えてくれた。また、チョコレートを食べた生徒は「ビター。」「苦かった。」と、いつものチョコレートとは味が違っていたと教えてくれる生徒もいた。

【6】本時の振り返り

・外国について知らない生徒が多いということが予想されたので、はじめにアメリカや中国、韓国の食べ物の写真を見た。また、地球儀や世界地図を一人ひとりに見るようにし、「みんなのいるところはここだよ、日本。」などと言いながらペルーを紹介し、世界というものを少しでも感じることができるようにした。すると、「アメリカ」「中国」「韓国」という国名と「おとなりの国だよ。」という言葉に反応して、地球儀や世界地図からカタカナを読んで国を探したり、「おとなり。」といて日本の近くを指さしたり、外国の名前に興味を示している様子が見られた。また、世界地図から教員と一緒にペルーを探す姿もあった。また、ペルーの現地の動画に対しては、関心を持つ生徒が多く、とても集中して見る様子があった。自分たちの身近なものと外国のものを比べる活動も色や大きさ、かたさなど写真を見たり、実物を触って比べたりすることで、「おなじ」「ちがう」を意欲的に見つけることができていた。楽器や、衣装、食べ物や飲み物があることで初めて見るものであっても興味を持って、積極的に体験する様子が見られた。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

・はじめて見るペルーのとうもろこしに対して、実物を見ながら「おなじ」と「ちがう」を見つめる学習を行った。写真と実物と見比べながら「おなじ?ちがう?」ときくと、「色がちがう。」や「大きさがちがう。」と発表していた。「たいけんしよう」では、実際に6種類のペルーのとうもろこしに触れたり、カンチータやジャイアントコーンを食べたりした。そこで最後の振り返りの時に、「おなじだった?ちがった?」と聞くと、「色はおなじだけど、味がちがう。」や「色はおなじだけど、大きさがちがう。」など、おなじところとちがうところの両方の視点から発表することができる生徒がいた。

・既習である「方向」「体」を表す漢字を使い、ペルーの遊びに触れる学習を行った。イラストを見ながら、「右手」「左手」「右足」「左足」の漢字を読んでイラストと同じポーズを取るという遊びである。その学習中に、(分からないかもしれない、間違ふかもしれない)と感じると学習からすこし遠ざかってしまう姿がある生徒が、学習中にであった自分の好きな動物(モルモット・アルパカ)のカードを見て、やってみようと思いつき意欲的に参加し、集中を切らすことなく学び続けることができていた。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

・いつもは、1時間の学習が終わると疲れてしまう生徒も、この学習の時間はずっと顔が上がり良い表情で質問にも答えることが出来ていた。また、ペルーの食べ物や飲み物を体験した際、初めての物なので少し不安そうにしている生徒や、「やめとく。」と自分の素直な気持ちを伝えに来た生徒もいた。しかし、一口食べたり、飲んだりしてみても大丈夫そうだからといって「おかわりください。」と伝えに来たり、はじめは「やめとく。」といていた生徒が、「のんでみる。」と言って飲み物だけチャレンジしたり、それぞれの生徒がやってみようの気持ちを出しながら学んでいる様子があった。さらに、2種類の飲み物を飲み比べるようにチャレンジした生徒や、気に入ったチョコレートを何度も「ください。」と言って、うれしそうに食べている生徒もいた。さらに、いつもは給食でとうもろこしを残してしまう生徒が、この授業後の給食に出たとうもろこしを「国語の勉強とおなじ。」といて、初めてすべて食べることができた。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】

(授業前)

・「英語であそぼう」の動画を日常的に見ていたり、外国に興味があり英語の単語を知っていて、出席確認の「元気ですか?」の問いかけに「I'm happy.」と答えたりするなど外国について関心を持っている生徒もいる。しかし、外国というところに視野を広げる機会はあまり多くなく言葉や文化、食べ物など、ちがうことがたくさんあるという面白さについてまだ知らない様子だった。また、自分の知らないことや知らないもの(食べ物なども)、初めてのことに少し不安感を持ったり、関心のないものに対しては(いやだ)と否定的な気持ちを持ったりする生徒もいた。

(授業後)

・ペルーという国の街並み、楽器や衣装、食べ物、飲み物を知ることで、たくさんの「おなじ」と「ちがう」を見つけることができた。生徒たちが見つけた「ちがう」に関するものの多くは、初めて知ることや初めて見るものばかりだったと予想されるが、それぞれがはじめてのことを楽しむ気持ちを持ちながら学習に臨んでいる様子が見られた。今まで、生徒たちにとって知らないことや、いつもとちがうことは不安に感じる要素だったかもしれないが、この学習を通して「ちがう」ことが「おもしろかった」につながってくれたように感じる。

【8】自己評価

1. 苦労した点	・自分にとって身近なものではないからこそ、イメージがしにくく、生徒たちの興味関心を引き出すためには、どのような教材を用意するのがいいのか。 ・生徒たちにとって課題過多にならないよう、何を教材にしていけばいいのか。 ・自分が感じたワクワク感を生徒たちにもどのように味わってもらえるのか。 ・外国に対する認識が難しい生徒たちに、どう遠い国の話を伝えるか。 ・外国をイメージするのが難しいので、できるだけ実物で用意をすること。
2. 改善点	・食の体験が出来ない学校では、五感を使った学びが難しいので、よく似た食の体験を交流することを通して、飲んでみたい、食べてみたいという意欲がペルーへの興味や関心を高めてくれるように思う。 ・年齢や校種、興味などがちがうそれぞれの児童生徒に適した写真や動画を選びながらスライドを作ったり、実物を用意したりすることで、「おなじこと、ちがうこと」の認識もより想像を膨らませながら、学べるのではないか。 ・家庭科の調理実習などと連携させながら、食体験を実施することが出来るのではないか。
3. 成果が出た点	・様々な実物を用意したが、その中でも生徒たちみんなが分かる身近なものは「とうもろこし」だった。みんなが知っているものだからこそ、直接感じたり考えたりすることが出来たので、比較しやすくなり、ペルーの初めてのものでも食べてみようかとチャレンジしてくれた。 ・実物を着たり、楽器を鳴らしたりと、遠いところにいながら、疑似体験を十分出来たので、子どもたちのいい笑顔を引き出した。 ・ペルーの実物に触れ、それが写った写真カードを用意したからこそ、子どもたち一人ひとりの好みのちがいがより掴めるようになった。
4. 備考	・今回特別支援学校で実践をさせてもらうことで、生徒たち一人一人をしっかりと見つめ把握することの大切さや、生徒が見通しを持って学習に臨めるようにすることの大切さを学ぶことができた。その中でも、初めてのことに對して不安を感じる生徒が、少しでも不安を減らし、新しいことにチャレンジするための工夫を考えることが出来た。 ・自分が初めて外国に行ったときに、たくさんのちがいに会って、みんなとちがってもいいと安心したり、ほっとしたりしたことがあった。今回の活動を通して、ちがいがあっても大丈夫と思える気持ちを生徒たちに感じてもらえたらと思った。「おなじこと、ちがうこと」を通して、人とちがうことがあってもそれを面白いと感じ、新しいことにチャレンジする気持ちにつながればうれしいと考えた。 ・新学習指導要領では、「何ができるか」を重要視し、そのために何を学ぶのか、どのように学ぶのかポイントになっている。そして、何よりその力を使って「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」が大切であると示されている。今回の取り組みでこの視点を生かすためには、教員が自らの体験を元にして、生徒たちと一緒に学んでいくことが大事だと思った。このことは、いずれの校種においても必要なことであり、生徒たちへ及ぼす影響についても、配慮しながら取り組むことの大切さを学ぶことができた。

添付資料

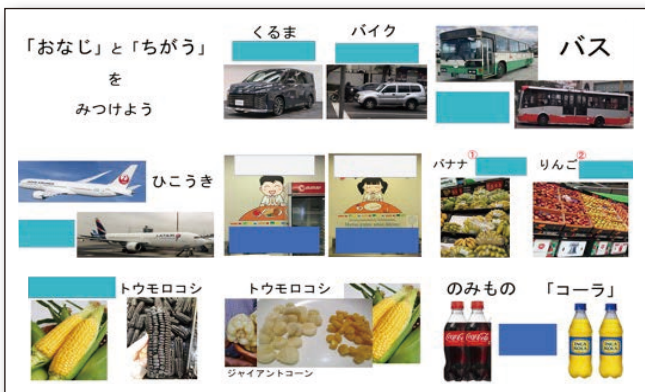
カード	ペルー (国旗)	くるま	ひこうき	カンチータ	インカ コーラ
	オカリナ	サンボニャ	アルパカ (2種類)	モルモット	ポーチ (コカ袋)
	衣装 (女性用)	衣装 (男性用)	ボンチョ	ウク マスク	ボンチョ 巻きスカート

表

裏



授業用スライド



トウモロコシ(6種)



乾燥ジャガイモ

楽器



モセセニョ
ピンキージョ

ケーナ

タルカ

雨音棒

マトラカ

チャフチャ

グイロ

参考資料:国立民族博物館 みんなぱっく「アンデスの玉手箱」